

平成29年度廃棄物処理事業審議会 議事要旨

1 日時

平成30年3月19日（月） 午後2時～午後3時50分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

今岡 務（会長）、川本 季子（副会長）、栗屋 仁美、伊藤 圭子、亀本 隆資、倉増 治男、滝脇 繁樹、天玉 朝子、林 千秋（以上9名）

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

報告1 平成28年度ごみ排出量等の実績について

報告2 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等について（平成28年度～平成29年度上半期）

報告3 南工場の建替えについて

(3) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料

○ 平成28年度ごみ排出量等の実績について（報告1）

○ 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等について（平成28年度～平成29年度上半期）（報告2）

○ 南工場の建替えについて（報告3）

8 議事要旨

発言者	発言要旨
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は報告が3件である。事務局から説明をお願いします。
環境政策課長	<p>【平成28年度ごみ排出量等の実績について、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等について説明】</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ただ今の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。
栗屋委員	<ul style="list-style-type: none"> 報告2の資料の20ページの「家庭系「可燃ごみ」の排出袋に透明又は半透明のポリ袋を追加」の実施状況で、「南工場及び安佐北工場において対応が困難」とあるが、なぜ困難なのか。
施設課長	<ul style="list-style-type: none"> 南工場及び安佐北工場は比較的古い工場であり、焼却炉がプラスチックを燃やすことを想定した設計になっていない。そのため、カロリーが高いプラスチックを燃やすと焼却炉が高温になり過ぎてしまい、不具合が生じるおそれがあるため、「その他プラ」の「可燃ごみ」への統合をしておらず、それに併せて、「可燃ごみ」の排出袋にポリ袋を追加していない。
栗屋委員	<ul style="list-style-type: none"> 提案だが、EUでは「サーキュラー・エコノミー」、資源循環という考え方が広がっている。この審議会の名称は「廃棄物処理事業審議会」だが、「処理事業」でなく、例えば「廃棄物再資源化審議会」や「廃棄物再生審議会」などの名称に変えることも時代の流れから必要なのではないか。 排出量を減らすことも重要だと思う。広島市が政令市の中で1人1日当たりのごみ排出量が最も少ないというグラフもあったが、資源化率はどうか。 今後は「ごみ」という概念ではなく、我々の生活や事業から排出される物をいかに再資源化するかというところに重きを置くのがよいと思う。そのためには、分別の徹底や再資源化できる技術を持った企業の調査、技術の共同研究などをしていくことが必要になるのではないかと思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 資源化率については、報告1の資料の4ページの表に記載しており、平成28年度実績は12.7パーセントで、平成25年度からほぼ横ばいとなっている。
栗屋委員	<ul style="list-style-type: none"> 他の政令指定都市との比較はどうか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 把握していないので、審議会の時間内に分かれば報告させていただく。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 審議会の名称変更についてはどうか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 審議会の名称については、条例等で定めていることもあり、すぐに変えることは難しい。提案の趣旨は理解した。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 名称の変更について、ぜひ御検討いただければと思う。「処理事業審議会」という審議会の名称は最近あまり使われていないと思う。廃棄物学会は廃棄物資源循環学会に、広島県の産業廃棄物協会も資源循環協会に名称を変えた

	<p>ので、審議会の名称も市の取組みを反映させたものに変更するのもよいかと思う。</p>
倉増委員	<ul style="list-style-type: none"> 区役所への小型家電リサイクル回収ボックスの設置は、広報しているのか。回収ボックスは区役所のどの辺りに置いているのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 回収ボックスは、区役所によって多少違うが区役所の入口のそばに設置している。高さ約100cmほどの黄色のボックスである。
倉増委員	<ul style="list-style-type: none"> ボックスが満杯になることはないのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回業者が回収しているが、回収日より前にボックスが満杯になると区役所から連絡があれば、回収業者に連絡するなどしている。
倉増委員	<ul style="list-style-type: none"> 自治会に回収ボックスの広報をしようと思う。今までは小型家電は資源ごみで回収していたのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 広島市の分別では不燃ごみであるが、小型家電リサイクル法が施行されたため、広島市として収集はしていないが、平成28年10月から各区役所に回収ボックスを設置し、市民に対して広報している。平成29年度の回収量は約7トンの見込みである。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法で周知を図っていただけたらと思う。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ごみ排出量が減少してきたのは、これまでのごみ減量の取組みの成果だと思う。報告1の資料の2、3ページの組成分析の結果を見ると、家庭ごみ、事業ごみともに「資源化できない紙類」が約3割を占めているが、「資源化できない紙類」とはどういったものを指すのか。 栗屋委員からもあったが、広島市で資源化することができない紙類でも資源化できるような業者があれば、減らすことができると思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 資源化できない紙類は、汚れた紙類、紙コップ、紙製のごみ袋などである。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業ごみも同様の分類か。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 事業ごみも同様の分類である。
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> 栗屋委員から御質問のあった資源化率について、平成27年度の実績では、広島市は政令市20市中17位である。最高が千葉市で32.6パーセントであり、広島市はその3分の1程度である。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 現在広島市では、町内会等による集団回収の促進の取組みをしている。他の政令市では、集団回収に対して助成金を出しており、集団回収量をごみ量としてカウントしているが、広島市は町内会等に独自の取組みとしてお願いしているため、集団回収量をごみ量としてカウントしておらず、資源化率が低い要因となっている。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 集団回収量をごみ量としてカウントされないことから、排出量が下がるのと同時に資源化率も下がる要因となっていると思う。集団回収については今後どのように広報していくかというのはあると思う。
滝瀧委員	<ul style="list-style-type: none"> 報告1の資料の3ページの事業ごみの排出量について、平成25年度から

	平成27年度にかけて増加し、平成28年度に減少した理由は何か。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に事業ごみの排出量は景気の変化と連動していると言われており、景気が悪くなれば排出量は減り、良くなれば事業活動が活発になり、排出量が増えると言われている。そのため、平成25年度から平成27年度にかけての増加は、景気が緩やかに回復したためだと考えられる。平成28年度の減少についてははっきりとした事は言えないため、長期的に見ていくしかないと思う。
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業ごみの中で特に何が減ったのか。可燃ごみの量と連動しているようにも見えるがどうか。事業ごみ量の分析によって、減った理由や有効だった活動が明らかになれば、その活動をより推進することで一層のごみ削減につながると思う。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 事業系可燃ごみについて、全量は把握していないが、ごみをピックアップして組成分析を行っており、紙ごみと食品ロスの割合は減少している。広島市では2年前から食品ロスの削減に取り組んでおり、各事業所、特に食品メーカーや卸売業者、小売業者に出向き、食品ロスの発生抑制のお願いをしている。排出された場合でも、民間のリサイクル施設に搬入するよう依頼している。 紙ごみについては、従前から、焼却工場の入口での搬入時のダンピングチェックや、大規模の事業所の施設を毎年訪問し、できる限り民間のリサイクルルートに回してもらうように指導している。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> そういった取組みの成果が少しずつ出ているのではないかと思うので、取組みをさらに強化すると良いと思う。
天玉委員	<ul style="list-style-type: none"> 資源化できない紙類について、広島市は牛乳やジュースの紙パックは資源ごみとして回収しておらず、スーパー等の店頭回収に持って行くようお願いしていると思うが、これらや紙コップ、アイスクリームのカップなどのビニールを使っているものが「資源化できない紙類」にどのくらい含まれているのか。また、広島市の収集品目に紙パックを追加できないのか。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 組成分析結果では、ワックス加工された紙類が約0.1パーセント含まれている。 ワックス加工やアルミコーティングされた紙類は、現在の技術ではリサイクル可能だが、分別収集や、他の紙ごみと混ざっている場合は選別する必要がある。他都市の大半は牛乳パックを資源ごみとして収集しているため、広島市でもリサイクルできるよう、西部リサイクルプラザ、北部資源選別センターの状況や選別業者との協議を重ねてきたが、施設のキャパシティとして選別が困難との回答があった。 今後も、施設管理者や選別業者と対応協議していきたいと考えている。
亀本委員	<ul style="list-style-type: none"> 業務第一課指導担当課長からも話があったが、小売業では、ブロッコリー

	<p>や花などを輸入する際に、鮮度が落ちないようにワックス加工されたダンボールが使われており、資源化できない紙類として排出されている。</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 事業系紙ごみについては、コストがかかると広島市が分別してリサイクルするのは難しいと思うが、情報収集して検討してほしい。
川本委員	<ul style="list-style-type: none"> ごみ減量・リサイクル実行委員会の委員長として、食品ロスの削減などに関わっているが、資源化できる紙類が13パーセント、手つかず食品、食べ残しも少なくはなったが廃棄されている。広島市ではごみ処理に年間120億円かかっているため、資源化や食品ロスの削減に取り組んで、広島市の税金を別のところに使えるよう、スーパーや他の市民団体と協力しながら活動を行っている。 先日は、子供向けの料理教室で調理くずを極力少なくした料理を作り、参加者も感動していたので、こういった取組みを広報していただくとともに、買い物袋の持参や食品ロス、30・10運動などを委員の方々にも広報していただくようお願いしたい。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> そういった取組みが数字にも表れてきていると思うので、ぜひご協力いただきたい。広島市は1人1日当たりのごみ排出量が政令市で最も少なく、人口も増加しており、他都市から見るとうらやましい状況にあると思う。
亀本委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業ごみについて、よく目に付くのは食品の風袋である。例えばブロッコリーであれば、頑丈な大きな木箱に入って届くなどしている。産地は作業が簡単であることやコストが安いため使用していると思うが、そういったものが事業所のごみとして大量に排出されている。行政からも産地に風袋の削減について要望してはどうか。 最近、地産地消の取組みとして「ひろしまそだち」の商品の販売を推進しているが、小松菜などを包んでいるビニール袋は捨てられるだけである。束にするだけであればごみはあまり出ない。持ち帰りやすさや詰めやすさなどのメリットもあるが、アピールで改善できるところがあるのではないか。 また、審議会に産業廃棄物の処理事業者を呼んで、事業所からごみとして捨てられる物を原料として活用できる企業の情報を提供してもらえれば、ごみを減らすとともに企業もコスト削減ができると思う。
川本委員	<ul style="list-style-type: none"> 「ひろしまそだち」の商品については、鮮度保持のためと、他の商品との差別化のために袋に入れているとのことであった。売り場で、「ひろしまそだち」として上手にアピールして置いていただければ袋も削減できると思うので、要望していきたいと思う。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> 亀本委員からダンボールやパッケージの話があったが、学校給食の食材を、中央卸売市場を通して仕入れる際にダンボールやパッケージのごみが大量に出るとのことであったため、中央卸売市場から産地に、パッケージを減らしたり再生可能なコンテナに変更するよう要請したとの話を聞いている。

	<p>そういった情報を収集しながら産地に働きかけができればと思う。</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市だけの働きかけは難しいと思うので、県や国と連携しながら取り組んでいただきたい。県には私からそういった意見があることを伝えたいと思う。広島市からも他の行政機関に要望していただくとともに、可能であれば産地に働きかけていただければと思う。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告2の5ページの「教育部局と連携した環境教育の推進」について、補助教材「わたしたちと環境」や、副読本「ごみのおはなし」を作成したとあるが、昨年の3月末に小中学校の学習指導要領が改定され、現場では持続可能な社会に向けた教育の関心が高まっている。現場の教員としては、こういった副読本、補助教材が手に入りやすいと大変助かる。ホームページに掲載したとあるが、掲載したのは教育委員会のホームページか、環境局のホームページか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「わたしたちと環境」は、環境局のホームページに掲載し、閲覧やダウンロードするようになっている。「ごみのおはなし」は、各学校に配布している。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ごみのおはなし」もホームページからダウンロードできると助かる。また、環境局と教育委員会のそれぞれのホームページでリンクし合っただけだと教材として使いやすい。 ・ ごみ減量・リサイクル実行委員会などが実際に行われた取組みもホームページに掲載してもらえれば教材にできると思う。文教女子大や女学院大学と開発したレシピもホームページに載せてはどうか。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ減量・リサイクル実行委員会の取組みについては、適宜環境局のホームページに掲載している。大学と共同開発したレシピやフードドライブなど活動についても、ホームページに掲載している。広島女学院大学に依頼したレシピも先週掲載した。 ・ また、7ページの「啓発用品等の貸出・提供」の事業について、昨年度の審議会で啓発用品の貸出件数が少ない、もう少し貸出物品を増やしたらどうかなどの御意見があったため、来年度予算にごみ減量啓発DVDの作成費用を計上しており、予算が通ればDVDの貸出や、ホームページへの掲載を考えている。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ DVDができれば、周知をお願いしたい。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次に、報告3について、事務局から説明をお願いする。
施設課長	<p>【南工場の建替えについて説明】</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただ今の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。
倉増委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安芸区船越に古い焼却場が残っているが、予算の都合がつけば撤去していただきたい。
業務第一課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 撤去については、費用を国に要望したりなど工面しようとしているが、撤

	<p>去には至っていない。</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 平成35年度からの安佐北工場の再稼働は、1炉のみでよいのか。
施設課長	<ul style="list-style-type: none"> 報告3の資料中2の(2)の②、南工場に求められる焼却能力の計算では、稼働停止のリスクとして、焼却能力が200トン下がった場合を想定している。平成35年度から安佐北工場を1炉のみ再稼働した場合、稼働停止のリスクを考えなければ焼却能力は800トンを超え、排出量に対応できる。平成35年度からの5年間はリスク管理ができないことになるが、焼却工場の点検・整備に万全を期すとともに、搬入するごみ量の調整等を行いながら乗り切っていきたい。
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> 安佐北工場は焼却炉が2炉あるため、2炉とも再稼働してはどうかという御意見だと思うが、再稼働するには排ガス処理設備等を新しく設置する必要があり、その設置スペース等を考えると1炉のみしか再稼働できない。既存の中工場、安佐南工場の点検・整備をしっかり行い、乗り切っていきたい。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 他にないようであれば、本日の会議を終了する。事務局から連絡事項があればお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は広島市災害廃棄物処理計画の策定について諮問させていただく予定であり、2回程度開催を予定している。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 広島市災害廃棄物処理計画の策定については、2か年度に渡って審議させていただく予定であるとのことなので、様々な御意見をいただければと思う。 以上で本日の会議を終了する。